



昨年の4月から委員として会議に参加しています。明るく自由な雰囲気の中で皆さんと語り合い、自分自身では考えつかない意見を聞くことができるので楽しい時間です。

委員になり感じたことは、「市の『ウエルカム』な姿勢」です。条例の前文(3ページ)は「です・ます調」の読みやすい文章で書かれています。活動を応援する補助金制度など、便利な制度もたくさんあります。市民の皆さんへの門戸は開かれていて、審査会では前向きに検討をしているので、目的が決まっている活動があったときに利用しない手はありません。

補助金の申請書は1枚の紙ですが、漠然と「なにかの活動をしたい」と描いている夢を書き記すことは大変な作業です。また、皆さんの中には「市役所は入りづらいところ」という印象を持つ方もいるでしょう。

「ただでさえ入りづらい場所に、自分の夢を書いて持つて行く、もしかしたらその夢を否定されてしまうかもしれない」そう考えて二の足を踏んでいるかもしれません。

「市役所との協働」の気持ちで

市民協働推進会議委員 岸田 典大 さん

制度の内容などをよりたくさんの方々に知っていたら、お互いの距離を縮めるためには、情報の発信を続けることと、お互いが顔を会わせる機会を増やすことが大切です。

また、私たち市民協働推進会議委員や新しく誕生した市民協働リーダーなどが間に入って相談を受けるなど、まちづくりやひとつくりに夢を持つ市民の皆さんと市のつなぎ役になりたいと考えています。

「市民協働のまちづくり」とは、市の事業に参加することだけではありません。夢と言うと大げさに聞こえるかもしれませんが「やってみよう」という希望は皆さん持っていると思います。

私たちの夢や希望を実現するために、自分一人ではできないとき「市のなにかを利用したら上手くいくのではないか？」という発想を持ちましょう。

待っていても実現することはありません。「市役所との協働」という気持ちで、活動を始めませんか？

【きしだ てんたい さん】 富丘 / 45歳

千歳出身の千歳育ち。絵本に音楽をつけて読み聞かせる「絵本パフォーマー」として活躍中。目標は市内のすべての小学校で「絵本ライブ」を開くこと。「行事に集まってくれるのはもともと本が好きの子。本を読むことが苦手な子どもに違った視点で読み聞かせてあげることが、本が好きになるきっかけになれば」と語る。

ることで、市民協働は少しずつ定着してきています。

今回の特集で紹介した取組のほかにも、皆さんがまちづくりに参加しやすい仕組みづくりを進めています。

市民活動を始めようとする市民へのきつかけづくりや市民活動団体の組織力を高めることを目的に、市内で活動する市民活動団体の情報を収集し広く公開しています。

また、市職員が市民協働の考え方や取組を理解し、その意識を高めるための職員研修を行っています。

市民協働をより定着させるために、市は、「まちづくりに関する情報の共有」、「市民協働の担い手となる人材の育成」、「市が行う活動への市民の積極的な参加」を柱にさまざまな取組を進めます。

国や都道府県から市町村へ自治体の権限が移り、地域が主権の社会に変わります。地域がそれぞれの特徴を活かした個性豊かな住みよいまちとするためには、市民活動団体が自ら企画立案して事業を行うなど、市民の皆さんが主体となった活動を活発にすることが大切です。

あなたも、千歳の将来都市像(まちづくりの目標)『みんなで生き生き 活力創造都市』の実現を目指し、市民協働のまちづくりに「参画」しましょう!!

記事の
お問い合わせ

企画部
市民協働推進課
市民協働推進係

☎ (24) 0 4 5 2